

様式 1

記載例

令和〇年〇月〇日

鳥取県各地方事務所特用林産担当課長 様

申込者 氏名 鳥取椎茸株式会社
代表取締役 鳥取 太郎
住所 鳥取市東町〇丁目〇番地

令和 6 年度特用林産生産資材価格高騰支援事業の応募申込書

このことについて、必要書類を添付し、応募します。

(担当)

氏 名：鳥取 次郎

電 話：□□□□-□□-□□□□

F A X：□□□□-□□-□□□□

E m a i l：□□@□□.□□

<添付書類>

- ・様式 1 応募申込書
- ・様式 2 特用林産生産量調査票
- ・様式 3 特用林産生産資材価格高騰調査票
- ・様式 4 きのこの生産資材導入支援取組計画書
- ・様式 5 きのこ生産コスト低減等実施計画書（チェックシート）
- ・様式 6 環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシート

事業者名：

品目	栽培方法	次期生産量の計算					3カ年平均生産量 (kg) 【②】	次期生産量 (kg)	電気代の 価格高騰の 影響 ※3	備考
		R6年度又は R6年の生産量 (見込み) (kg) 【①】 ※1	R3年度 又は R3年 の生産量 ※2	R4年度 又は R4年 の生産量 ※2	R5年度 又は R5年 の生産量 ※2					
しいたけ	菌床	2,000	900	1,300	1,800	1,333	1,868	○		
なめこ	菌床	0	300	200		250	0			
えのき	菌床	900	1,000	1,000	1,000	1,000	841			
ひらたけ	菌床	700	1,500	1,200	900	1,200	654			
ぶなしめじ	菌床	700	200	200	300	233	654			
							0			
							0			
							0			
							0			
							0			
計		4,300	3,900	3,900	4,000	4,017	4,017			

■実施要領別記1の4の次期生産量の算定の仕方より

- 今回適用→ ①の総量が②の総量より大きいので、各品目の①に②/①を乗じた数値を次期生産量とする。
 ②の総量が①の総量より大きいので、各品目の①を次期生産量とする。

<記載要領>

- ・実施主体が製造するすべての品目ごとの「R6年度又はR6年の生産量（見込み）」及び「R3年度からR5年度まで又はR3年からR5年までの生産量」を入力してください。
 R6年度又はR6年の生産量（見込み）の算出根拠が分かる書類及びR3年度からR5年度まで又はR3年からR5年までの生産量の根拠書類（出荷伝票等）を添付してください。

<各欄の留意事項>

- ※1 過去3カ年（いずれかの年も含む。）に生産していたが、R6年度は生産する見込みがない品目は"0"を入力してください。（空欄の場合は正しく計算されません。）
- ※2 各品目毎にやむを得ない事由により前年より3割以上減少した年、または各品目のきのこ生産を開始した年は年間平均生産量の計算から控除するため、該当欄を空欄としてください。（"0"を入力すると、年間平均生産量の対象となります。）
- ※3 令和6年又は令和6年度のきのこ生産に係る経営費(生産資材費、光熱水費、修繕費、償却費、支払利息、租税公課、労務費、流通経費などの合計額)のうち電気代が15%を超える見込みの場合は"○"を記載（プルダウンで選択）してください。

様式3 特用林産生産資材価格高騰調査票

事業者名： _____

きのこの種類：○○○ 単位：生産量○○○kg当たり

区分	項目	使用量	単位	R4.2時点 資材価格	上昇 した月	資材 価格	上昇 した月	資材 価格	上昇 した月	資材 価格	R6.1時点 資材価格	資材 価格	上昇 した月	資材 価格	上昇 した月	資材 価格
種菌	種菌	280	本	110	R4.4	130	R4.12	150			R5.10	160	R6.5	170	R6.11	180
培地	おが粉	3	m ³	4,500	R4.4	4,550	R4.10	4,600			R5.12	4,700	R6.4	4,750	R6.11	4,780
	米ぬか	400	kg	38	R4.8	45	R4.12	50			R5.10	50	R6.6	55		
	その他栄養剤	1200	kg	52	R4.6	58	R4.11	62			R5.8	63	R6.6	65		
	活性剤	25	kg	500	R4.10	550					R5.9	560	R6.10	570		
薬剤	エタノール製剤	1.5	ℓ	320							R5.11	330				
	次亜塩素酸Na	1	ℓ	116							R6.1	118				
栽培袋	有孔ポリ10m	0.5	本	3,000							R6.1	3,100				

<単位生産量の設定根拠>
 ※上表の単位として設定した生産量の根拠を記載してください。

- <記載要領>
- ・きのこの種類ごとに作成してください。（このシートを必要枚数、複製してください。）
 - ・生産に使用した資材はすべて計上してください。
 - ・R4.2～R4.12までの期間及びR6.1～R6.12までの期間の資材価格の上昇を調べたいので、R4年及びR6年の資材価格と資材価格が上昇した月・価格を記載し、領収書等の根拠書類を添付してください。R5の期間は不要です。
 - ・R4.2時点とR6.1時点の単価は必ず記載して、根拠資料を提出してください。
 - ・流通や付加価値向上のための資材（段ボールや化粧箱等）は対象になりませんので、上表に計上しないでください。
 - ・トレーや袋、ラップなどは、きのこ生産に不可欠な資材なので、上表へ記載してください。

きのこの生産資材導入支援取組計画書

第 1 事業実施主体の概要

取組実施者名又は 取りまとめ者名	鳥取椎茸株式会社	
代表者の役職・氏名	代表取締役 鳥取 太郎	
取組実施者又は取りまと め者の住所	〒□□□-□□□□ 鳥取市東町○丁目○番地	
事業担当者の連絡先	所属・役職・ 氏名	○○課 ○○長 鳥取 次郎
	電話番号	□□□□-□□-□□□□
	E-mail	□□@□□.□□

第 2 取組実施者の概要

きのこの種類	きのこの販売 収入が事業収 入の過半を占 める	経営費に占め る電気代の割 合 15%以上	次期 生産量 (kg)	年間 平均 生産量 (kg)	備考
しいたけ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1,868	1,333	
なめこ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0	250	
えのき	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1,841	1,000	
ひらたけ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	654	1,200	
ぶなしめじ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	654	233	
計			4,017	4,017	

(注)

- 「きのこの生産資材導入支援取組計画書」として使用する場合は、取組実施者のきのこの販売収入が事業収入の過半を占めることを証明する書類、次期生産量及び年間平均生産量の算出根拠となる資料（出荷伝票等）並びに経営費に占める電気代の割合を証明する書類（確定申告や決算書等）を提出すること。
- 次期生産量及び年間平均生産量（kg）は本要領別記 1 の第 3 第 4 項に基づき記載すること。
- 「きのこの生産資材導入支援取組実績報告書」として使用する場合、「次期生産量」を「令和 6 年度又は令和 6 年の生産量」とするものとし、算出根拠となる資料（出荷伝票等）を添付すること。
- 適宜、行を追加すること。
- 表中に十分に記載できない場合には、別紙で提出すること。

※事業実施主体が取りまとめ者の場合は以下の記載による。
参考様式第1－3号のとおり。

取組実施者数

第3 次期生産量
4, 017 kg

第4 誓約・同意事項

事業実施主体（取組実施者を含む。）は、補助金申請に当たって次の事項を誓約・同意するものとする。

以下の内容について誓約・同意する	チェック欄
1 本事業に係る報告や立入調査について、都道府県知事又は林野庁長官等から求められた場合に応じます。 2 取組を実施したことが確認できる書類等の証拠書類について、補助金の交付を受けた年度の翌年度から5年間保管し、都道府県又は林野庁長官等から求められた場合は提出します。 3 以下の場合には、補助金を返還すること、又は交付されないことに異存ありません。 ア 取組計画書及びその他の提出書類において、虚偽の内容を申請したことが判明した場合 イ 正当な理由がなく、取組計画書に記載した取組を実施していないことその他きのこの生産資材導入支援実施要領第6第1項に定める補助金の交付要件を満たさないこと等が判明した場合 (注) 誓約・同意事項の内容を確認の上、チェック欄に○を記載すること。	

記載例

チェック時期		令和 年 月				
氏名	鳥取椎茸（株）					
対象品目	しいたけ	栽培方法	菌床	栽培規模	1,868	ト/年
対象品目	なめこ	栽培方法	菌床	栽培規模	0	ト/年
対象品目	えのき	栽培方法	菌床	栽培規模	841	ト/年
対象品目	ひらたけ	栽培方法	菌床	栽培規模	654	ト/年
対象品目	ぶなしめじ	栽培方法	菌床	栽培規模	654	ト/年

- 1 実施する(している)取組メニューに「○」を付けてください。
 - 2 生産資材の国産化に向けた取組、コスト低減に向けた取組のいずれも、令和6-7年度に取り組むことが必須です。
 - 3 「生産資材の国産化に向けた取組」は具体的な取組内容を記載してください。「コスト低減に向けた取組」は、「令和6年度または令和7年度」の取組に、チェックポイントの取組メニューが15個以上必要です。そのうち2つ以上は、新しい取組、従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)を含むようにしてください。
- 注 令和5年度から継続して当事業を活用される場合、令和5年度の実施計画書で「令和5-6年度」の欄を「◎」としたものは、当実施計画書では「令和5年度までの取組」欄を「○」とし、「令和6-7年度」の欄で、拡充等を行うものを「◎」として下さい。

1. 生産資材の国産化に向けた取組

国産化	生産資材の国産化（必須）	令和5年度までの取組	令和6-7年度
	生産に使用する生産資材の国産化を図っていますか ・取組の具体的な内容（既存の取組、試行的な取組も含む） ○○、□□について、外国産の使用をやめ、国産品を使用する。	○	◎

2. コスト低減に向けた取組

チェックポイント		令和5年度までの取組	令和6-7年度
燃油暖房機	1 燃焼用新鮮空気の入力口を設けましたか	○	○
	2 缶体を清掃しましたか	○	○
	3 バーナーノズル周辺、ディフューザー、ストレーナー、火災検出器等を清掃しましたか	○	○
	4 バーナーノズルを点検して定期的に交換していますか	○	○
	5 ノズルヒーターに不具合はありませんか	○	○
	6 エアシャッターで適正な空気量となるよう調整していますか	○	○
	7 長期間保存した燃料を使用していませんか	○	○
	8 温湯暖房の場合、缶水の入れ替え、腐食抑制剤の投入を行いましたか	○	○
	9 温風ダクトの漏れや破れはありませんか	○	○
	10 オイルタンクの水抜きや配管の漏れを確認しましたか	○	○
木質暖房機	1 貯蔵タンク（サイロ）と暖房機の距離は適切ですか（15m以内）		
	2 暖房機本体の設置場所は適切ですか（培養棟・発生棟端側の中央部）		
	3 燃油暖房機とのハイブリッド運転時の温度設定は適切ですか（燃油暖房機より1～2℃高く設定）		
	4 ダウンシュート対策をとっていますか		
	5 燃料の供給経路（サイロ⇒暖房機本体）に異常はないですか		
	6 燃料を適切な乾燥状態で使用していますか		
	7（廃ほど暖房機の場合）廃ほど木の乾燥は十分ですか		
	8 煙突掃除、燃焼灰の清掃等のメンテナンスをこまめに行っていますか		
空調設備	1 室外機や室内機周辺の障害物を除きましたか	○	○
	2 室外機は北風等の影響がない場所に設置しましたか	○	○
	3（ヒートポンプの場合）デフロスト水の排水、積雪への対策をとりましたか	○	○
	4 室外機と室内機をなるべく近くに設置しましたか	○	○
	5 電線の太さ・長さ（引込柱～室外機の長さ）は適切にしましたか	○	○
	6（ヒートポンプの場合）ハイブリッド運転時の温度設定は適切ですか（燃油暖房機より2～3℃高く設定）	○	○
	7 空調機接続周辺部に被覆の破れや隙間はありませんか	○	○
	8 エアフィルターや熱交換器（室内・室外）の清掃を定期的に行っていますか		◎

チェックポイント		令和5年度までの取組	令和6-7年度
センサー	1 センサーの先端に水滴が付いていたり、壁や内容物に接触したりしていませんか		
	2 センサーを栽培棚中央付近など適切な高さに設置していますか		
	3 センサーを暖房機や送風ダクトの吹き出し口付近に設置していませんか		
	4 センサーの正常な作動を確認していますか		
温度管理	1 送風ダクトの設置方法（本数、太さなど）は適切ですか	○	○
	2 循環扇の設置方法（配置間隔、作物影響など）は適切ですか	○	○
	3 温度設定にあたり栽培品目・菌種の適温を確認しましたか	○	○
	4 培養棟・発生棟内の温度ムラの有無や温度差を適切な方法で確認しましたか	○	○
	5 送風ダクトや循環扇を有効に活用して温度ムラを改善しましたか	○	○
	6 送風ダクトの内部清掃は適切に行っていますか	○	○
	7 施設内の菌床、ほだ木の収容数は適切ですか	○	○
	8 夏季に培養棟・発生棟におけるミスト噴霧、屋根散水などの対策を講じていますか	○	○
	9 床暖房等に使用する温水ポイラ等の設定温度は適切ですか	○	○
	10 換気に熱交換器を利用していますか		
	11 天候の変化や日長に合わせて適切に被覆資材の上げ下ろしをしていますか	○	○
外張被覆	1 被覆資材が汚れていないか確認しましたか		
	2 培養棟・発生棟の外張被覆の破れや隙間を点検しましたか		
	3 天窓や出入口部の破損や隙間を点検しましたか		
	4 被覆資材留具の緩みを点検しましたか		
	5 シェード（日除け）の遮光率は適切ですか		
	6 高温対策として、シェード（日除け）の2重張りを行っていますか		
	7 換気扇シャッターや使用しない出入口の目張り、側面巻き上げフィルムの固定をしましたか		

きのこ生産コスト低減等実施計画書（チェックシート）

記載例

No. 2

チェックポイント		令和5年度 までの取組	令和6-7年 度
内 張 カ ー テン	1 培養棟・発生棟に内張（カーテン、固定張り）を設置していますか		
	2 保温、断熱性能の高い内張り用シートを利用していますか		
	3 内張カーテンを多層化していますか（可能であれば培養棟・発生棟全面）		
	4 内張カーテンに破れや隙間がないか点検しましたか		
	5 内張カーテン裾部の隙間（膨らみ）を点検しましたか		
	6 培養棟・発生棟の出入口付近や裏面は隙間のないように保温対策を行いましたか		
	7 多層カーテンでは被覆資材同士の間隔（資材同士が張り付かない）は適切ですか		
	8 多層カーテンでは肩部などの隙間対策を行いましたか		
	9 自動開閉の場合、開閉させて隙間や開閉動作に問題がないことを確認しましたか		
菌 床 栽 培	1 菌床殺菌時に対象に応じた殺菌時間を設定していますか	○	○
	2 殺菌釜内の収容数は適切ですか	○	○
	3 殺菌後の冷却時間は適切に管理していますか	○	○
	4 菌種の選択にあたり、培養環境、市場性を考慮していますか	○	○
	5 菌床材料の保管状況は適切ですか	○	○
	6 菌床の含水率は適切ですか	○	○
	7 栽培舎への菌床収容数や間隔は適切ですか	○	○
	8 栽培施設（培養室、発生棟）の環境条件（温度・CO2等）を計測していますか	○	○
	9 散水・加湿は、適切な量、タイミングで行っていますか	○	○
	10 照明にLEDを使用していますか	○	●
	11 こまめに消灯するなど点灯時間は適切ですか	○	○
	12 製造ロット単位等の菌床ロス率のチェック・改善を行っていますか		●
	13 作業域内の動線配置が交錯しないようにしていますか	○	○
	14 作業域内において作業者の歩行（移動）距離が短くなるよう工夫していますか	○	○
	15 作業時間の計測を行っていますか	○	○
	16 作業標準を作成していますか		●
	17 作業に用いる道具類の保管場所は決まっていますか	○	○
	18 施設内の整理、整頓、清掃等を定期的に行っていますか	○	○
	19 器具機械等のメンテナンスを定期的に行っていますか。	○	○
廃 棄 物	1 廃菌床の他用途への活用を行っていますか(エネルギー、堆肥、飼料等)		
	2 廃ほだ木の他用途への活用を行っていますか(エネルギー、堆肥、昆虫飼育材など)		
	3 菌床袋、培養ビン等プラスチック資材の廃棄量の削減やリサイクルに取り組んでいますか		

チェックポイント		令和5年度 までの取組	令和6-7年 度
原 木 栽 培	1 原木の伐期は適切ですか（購入の場合、依頼・確認等していますか）		
	2 原木の葉枯らし・乾燥期間は適切ですか（購入の場合、依頼・確認等していますか）		
	3 ハラアコブカミキリ等害虫木の移動を避けるなどの虫害対策を行っていますか		
	4 労働力配置や栽培環境、市場性を考慮して菌種を選択していますか		
	5 植菌器具機械等の掃除、メンテナンスを定期的に行っていますか		
	6 植菌数、植菌間隔は適切ですか		
	7 伏せこみにあたって、栽培環境に適した組み方を選択していますか		
	8 植菌後のほだ化の様子をこまめに確認していますか		
	9 ほだ場の環境条件を計測し、改善していますか(温度、湿度、照度、方角等)		
	10 気温、湿度条件に応じた適切な散水を行っていますか		
	11 天気予報を確認し作業計画に反映させていますか		
	12 ほだ場の選択にあたり自然災害の予防を考慮していますか		
	13 ほだ木の天地返しを行っていますか。		
	14 ほだ木の遮熱対策を十分講じていますか。		
	15 発生操作の方法、タイミングは適切ですか		
	16 収穫は適切なタイミングで行っていますか。		
	17 作業路の排水対策を講じていますか		
	18 林内作業車等車両系機械のエンジンをこまめに切っていますか		
	19 鳥獣被害の予防対策を行っていますか		
加 乾 工 、	1 乾燥効率の向上に取り組んでいますか(庫内配置の適正化など)	○	○
	2 乾燥時間を短縮させる取組を行っていますか(スライサーの導入等)	○	○
	3 きこの種類に応じた乾燥機の温度管理を適切に行っていますか	○	○
	4 再度吸湿しないよう乾燥後の取り込みタイミングは適切ですか	○	○
出 荷	1 包装資材の節約・減量化に取り組んでいますか	○	○
	2 通いコンテナ等輸送資材の再利用に取り組んでいますか	○	○
	3 包装資材の脱プラスチック化に取り組んでいますか	○	○
そ 他	1 ソーラーパネル等、再生エネ導入に取り組んでいますか		
	2 販売価格の適正化、生産コストの適切な価格転嫁に取り組んでいますか		
その他独自の コスト低 減の取組			